

研究所だより

インフォーラム 2004 開催

文学部教授
山崎真稔

七月八日の午後、玉川学園講堂で
学術研究所言語情報文化研究施設の
シンポジウム、「InFORUM2004」
が開かれました。施設が発足した二
〇〇二年の秋から数えて三回目のシ
ンポジウムです。

毎回、言語・認知
研究や言語文化教
育の分野で活
躍されている
内外の著名
な研究者を
お招きして
講演してい
ただいていま
すが、今年も静
岡県立大学から寺
尾康先生、台湾の淡
江大学から陳山龍先生、そ
してニュージーランドのオークラン
ド工科大学からグレン・トー先生を
お招きして、それぞれのご専門の分
野の先端的で刺激的な、示唆に富ん
だお話をしていただきました。

会場からも質
問・意見が出さ
れ、充実したシ
ンポジウムとな
りました。次に
お三方の講演の
内容を簡単にご
紹介したいと思います。

音位転倒はどついで起る

寺尾先生は心理言語学の立場から
音位転倒を取り上げられました。

音韻要素の位置が交換されてしま
う音位転倒には、「山茶花(さんさか)
が「さざんか」に、「竜胆(りうたん)
が「りんたう」をへて「りんどう」
に、「体(からだ)」が「からだ」にな



音位転倒について講演する
静岡県立大学の寺尾康先生

学 術 研 究 所

全人教育研究施設

ミツバチ科学研究施設

知能ロボット研究施設

量子情報科学研究施設

脳科学研究施設

応用生命科学研究施設

菌学応用研究施設

人文科学研究施設

言語情報文化研究施設

心の教育実践センター

るなど、歴史的に、あるいは方言に
おいて定着しているものが数多くあ
ります。日常生活においても音位転
倒はしばしば起り、たとえば「浜
名湖」を「はなまこ」、「彩り」を
「いどろり」と思わず言い間違っ
てしまうことがあります。

寺尾先生は、このように私たちが
無意識のうちに行っている音位転倒
に規則性を見出して、そのメカニズ
ムを解明し、さらには発話モデルを
構築していこうとされています。日
本語の音位転倒が、すぐ隣の共通の
母音を持ったモーラ(音韻論上の単位
間で起りやすく、不自然で言い
にくい音連続から言いやすい音連続に

研究所だより



聴衆からも活発な意見・質問が出された

台湾における日本語教育の現状

変えるものであることを指摘され、この転倒現象を、「さまざまな言語単位がネットワークの節点にあつて競い合う」という発話モデルを使って興味深く説明してくださいました。

陳先生は台湾における日本語教育の現状とその問題点を、堪能な日本語を駆使してお話くださいました。

台湾での日本語

教育は日本ブームの煽りを受けて、その発展が多岐にわたり、幼稚園から大学院までの各教育機関でさまざまなコースが設けられているとのこととです。

日本語の学習人口は約四〇万人。外国語としては英語に次いで第二位



淡江大学の陳山龍先生。日本語教育の現状における問題点の指摘があった

を占めています。大学レベルでは日本語文学系と応用日語学系に分かれています。卒業するには一・二・八単位以上の修得が求められ、多くの者が日本語能力試験一級の資格も合わせて取っていくとのこととです。

陳先生が指摘された教育上の問題点は教材と教員に関わるものでした。教材は日本で開発されたものが主で、台湾で使用すると必ずしも適切ではないものがある、また、日本人教師が多くいても台湾の学生を理解する者は少ない、という指摘には日本人としても対策を打ち出さなければならぬと思われました。

英語学習の現状と学習者の問題

トー先生はアジア各地の英語教員



言語政策・言語教育の専門家であるオークランド工科大学のグレン・トー先生

研修センターで指導力を発揮してこられた言語政策・言語教育の専門家です。

英語が国際語となっている現状をいかにとらえたらよいのか、また、そうした状況に英語教育に携わる教員がどう対応していったらよいのかを熱く語ってくださいました。

深く考えさせる問題提起に続いて解決への糸口が示唆されました。語学教育において現在きわめて魅力的なパラダイムの変化がおきていること、その変化に対応するために柔軟な思考や広い視野が欠かせないことが改めて指摘されました。

特に若い聴衆の中に挑戦意欲をかき立てられた者が多かったと感じました。